

2025年
328号
9月17日(水)

ねんきん越谷

全日本年金者組合越谷支部
〒343-0845
埼玉県越谷市南越谷2-13-49
(越労連内)
TEL・FAX 048-989-2472
E-mail keyaki-n@biscuit.ocn.ne.jp

弥十郎自治会館にて「暑気払い&誕生会」 暑気払いといえ、ソーメン



8月31日(日)に今年の「暑気払い&誕生会」を「弥十郎自治会館」でおこないました。今年の猛暑は異常です。エアコンは毎日つけっぱなしです。越谷は8月になって雨がなかなか降らず家庭菜園をやっているものにとつては、人間も参っています。水やりをしないと野菜もかわいそうです。8月の最後まで地域によっては40度近い猛暑が観測されました。

この中で暑気払いといえ、やはりソーメンです。役員は9時半に10人が弥十郎自治会館に集まり、会場の用意、ソーメン等調理の担当者、食材、飲み物、誕生花、イベントの賞品などを購入する担当者、バス停での道案内の担当を決めました。準備をいただいた役員の方々、本当にご苦勞様でした。11時半頃から参加者が集まりはじめました。12時に暑気払いの開始。



参加者は27名、工藤秀次市議が息子さんを連れて参加、挨拶をされました。また、今回は初めてになります。谷市長が挨拶に見えられ、その後質問のコーナーで、地域交通の件に3名の方から質問がありました。市長から返答をいただきました。

宇佐美県本部委員長の乾杯の音頭で、冷えたビールで乾杯し、てんぷらをのせたソーメンをいただきました。おいしかったです。調理を担当していた役員の方々、ご苦勞様でした。食事がある程度進んだところで、参加者から自己紹介を兼ねた近況報告をいただきました。近況報告の後、吉



(左から)
宇佐美忠利
高橋三郎
中島一男
(和田支部長)
橋本勇夫
宮田みち子
宇佐美とし子



田正美さんのコカリナの伴奏、宮下さんの歌唱指導で昔懐かしい歌を何曲か合唱しました。今回のイベントは以前のジャンケン大会に代わり、参加者に配った数字が記された半券に支部長が引いた半券の数字があたった人に賞品を差し上げるというものです。賞品は500円のクオカード10枚です。そのほか参加者が持ち寄った品物を欲しい人に渡し、6、7、8月生まれの方6人に誕生花を贈り(写真参照)、誕生会は無事終了しました。今回は「いも煮会&誕生会」で11月5日(水)の予定です。(五十嵐)

点晴

年金訴訟に勝つ条件は

全日本年金者組合は、日本国憲法(第25条第1項)【すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。】の観点で年金訴訟をしてきた。しかし、企業で給与減は、企業倒産の懸念があるなら、法的に容認される。司法は、「ない袖は、振れない。」に抗することができず、2028年には、従来、生涯給付だった「遺族年金までが5年まで」になる。

しかし、自国通貨のある通貨制度では、「国債発行で通貨量を増加」できるし、大半の通貨は、数値(印字や電子信号)であり、通貨を増やしても、モノのあふれた日本では、開発途上国のような便乗値上げによる質の悪いインフレは、起きない。政府の帳簿内の数値変更だけで、国民に負担させることなく、政府借金は、政府が返済できるからだ。

逆に言えば、政府の多額の債務は、実務に弱い日本の経済学者と政府職員の不作為によるものである。2019年、消費税率を10%に上げた後、IMF専務理事ゲオルグバは、当然のような顔で、さらなる消費増税を提言した。IMFにも、多数の財務省職員が向うしているからだ。

17世紀以降、米国の植民地化をめぐる戦争を抑制するため、英国王に債務額を見せるための金融制度が世界の標準となったが、日本財務省は、増税を目的として、GHQによる財政法を、不当に拡大解釈してきた。国内の経済学や財政学は、財政規律を絶対条件であるかのように説明してきた。しかし、IMFは、他の金融業者と同様に「債務の罫」で国々の経済困難を、さらに困難ならしめ、影響力を強めてきたことは、歴史の皮肉である。(渡邊穰二)

＜年金受給日宣伝＞ 10月15日(水) 南越谷駅頭 10:30~11:30